

## 2018年度 事業報告

### 特定非営利活動法人相模原ボランティア協会

#### 《概要》

2018年の日本の気象状況は、7月の豪雨、猛暑、冬の豪雪等の異常気象や北海道胆振東部地震、台風21号などの災害の多発した年でした。当協会の2018年度に課題として上げたボランティアの高齢化や事務部門の強化などの問題は残っています。

2018年度、理事会で検討したことはハンディキャブ運転ボランティアの定年制を設ける事、ボランティアを増やすために入会時の初年度年会費の免除を総会に諮り実施することを決めました。さらに理事会は役員任期の一部改訂と役員の就任・退任の時期を通常総会開催日に変更する定款の改定を決め総会に諮ります。事務部門の強化については前向きに検討していますが、今だに解決に至らず引き続き検討していく事になります。

事業の面では、まずハンディキャブ（以降HCと記します）事業はボランティア不足で利用者の新規入会を一部断らざるを得ない事態もあり、ボランティアの増加が急務です。

ボランティア養成講座は夏に基礎講座とコース別講座（4コース）を開催し、春の入門講座は一日講座とし終活をテーマとして開催しました。

情報発信事業はホームページを刷新し、わくわくも読みやすくするなど情報提供に努めています。

障がい者団体との交流事業である“ほかほかふれあいフェスタ”は、健康フェスタ（ウエルネスさがみはら）と健康スポーツイベント（市体育館）と同時開催となり推定1500人の来場者がありました。12月の障害者週間に合わせたキャンペーンも2800人の方々にPRさせて頂きました。又、“新春ボウリング大会”も盛況裡に終了しました。

「協会らしい」事業として居宅訪問型の傾聴、住まい探し、就労支援などの活動も進めてきました。傾聴については中央区、緑区にも広がりを見せ利用者も月20人ほどに増加しています。

以上、各事業を推し進めましたが、これは会員の皆さまのご協力なしには出来なかったことです。ここに改めて会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

#### 《特定非営利活動にかかわる事業報告》

##### 1. ボランティア活動の総括

ボランティア団体、市社会福祉協議会、行政との協働のもと、移送援助活動や日常生活支援などを通して障がい者、高齢者の社会参加を拡大していく事を目指しました。さらに「協会らしい」事業として住まい探しや就労支援のお手伝いを実施しました。そして事業運営円滑化のための事務局の増強、財源確保のための活動を行いました。

##### 《ボランティア動員数》

	利用者数 (年間延人数・回数)	ボランティア (年間延人数)		備 考
		協会員	その他	
HC事業活動	1,458名	1,081名	—	運転及び介助ボランティア
交流事業 ・桜まつり	—	79名	16名	連協他団体と協業、推定参加者 (10月1,500名, 12月2,800名)
・ほかほかふれあいフェスタ	4,300名	40名	29名	
・新春ボウリング大会	49名	17名	—	
傾聴ボランティア活動	158回	354名		利用者22名、活動者32名、
ボランティア養成講座・春講座	54名	27名	21名	委員会67名
広報活動	—	303名	67名	月刊、季刊誌、ホームページ
事務局	—	614名	庶務292人・HC調整業務322人(月～土)	

## 2. 高齢者、障がい者への援助活動

### (1) HC運行事業

単独で外出困難な人々の支援を行うために2台の福祉車両とセダン型車を活用して「安心と安全を運ぶ」をモットーに延べ1,031回に及ぶ運行を行いました。運転ボランティアの不足が最大の課題で、種々の機会に勧誘活動を行いました但し解決には至っておりません。その為ボランティア不足が特に顕著な南地域では新規利用者の受け入れを中断しました。また、10号車の更新を計画し日本財団に申請しましたが不合格となり継続使用とすることにしました。尚、小中学校の「みんないい人体験講座」にも参加しています。

《2018年度の運行実績》

運行種類	内 容	件 数	利用者数	運転ボラ	介助ボラ
一般運行 (内セダン型運行)	通院・外出 ・買い物等	1,031 件 ( 334 )	1,458 名 ( 462 )	1,055 名 ( 334 )	26 名 ( 0 )
学校協力事業	体験学習など	4 件			

### (2) ボランティア団体とのネットワークづくりと交流事業の開催

ボランティア団体とのネットワークづくりについては、市内で活躍しているボランティア団体をぼらんていあ通信で紹介するため、いるかバンクなどに登録している団体を「ほっこりなボランティア」として掲載。そのため、毎月、市社協のご協力を得て、グループの担当者を訪問。2018年4月から2019年3月までに19団体を掲載し、掲載の資料集め、内容確認、ぼら通10部程度を渡すなど毎月3回ほどの訪問で、ボランティア協会への理解と親交を図っています。さらに障がい児者団体等と連携することにより、ほかほかふれあいフェスタなどを開催しました。

#### (イ) ほかほかふれあいフェスタの開催

障がい者、ボランティア、市民との交流を目的とする「ほかほかふれあいフェスタ2018」は、2018年10月20日(土)に相模原市、相模原市教育委員会、相模原市社会福祉協議会、相模原市社会福祉事業団の後援を得て、あじさい会館およびウェルネス相模原前広場で開催し、約1,500名の参加がありました。また、今回は「健康フェスタ」、「健康スポーツイベント」との同日開催となり、参加者の増加に繋がりました。

さらに、12月8日(土)には障害者週間にちなんで、サンデッキ相模大野で障がい福祉に関する市民の関心と理解を得るためのキャンペーンを実施し約2,800名の方にPRしました。なお、今回は市の協力により、サンデッキに設置されている電源設備の利用が可能となり、準備品(発電機、ガソリン)の節減に効果がありました。

#### (ロ) 障がい児者とのボウリング大会

障がい児者との新春ボウリング大会を2019年2月16日(土)に相模原パークレーンズの協力を得て開催しました。参加者は9団体49名(選手43名)、ボランティア、協力団体を合わせて総数66名の参加となりました。(実行委員会は3回開催しました)

### (3) 傾聴活動

当協会は、2014年から居宅訪問型の傾聴ボランティア活動を開始しました。当協会の基本ルールは月1回1時間程度、居宅を2人で訪問しお話し相手をしています。介護保険ではヘルパーは会話の余地がなく、その部分を傾聴ボランティアがカバーするという趣旨です。利用者の紹介は市社協ボランティアセンターやケアマネージャーの紹介の他、HC利用会員へのパンフレット配布を行いました。

2018年は158回の傾聴活動を実施し、利用者は22名でした。これまでの傾聴活動の推移は次の通りです。

《傾聴活動の推移》

年度	活動件数	実利用者数	実活動者数	延べ活動者数	直前中止件数
2015	61件	11名	16名	139名	—
2016	75件	12名	20名	154名	11名
2017	148件	14名	27名	310名	7名
2018	158件	22名	32名	354名	27名

(4) 就労困難な方々への社会参加の機会づくり

厚生労働省事業で、相模原市がNPO法人文化学習協同ネットワークに委託している事業（ニートや引きこもり状態にある若者の職業的自立に向けた支援をするため、総合相談や就労支援プログラムを作成し、他の若者支援機関と連携し継続的な支援を実施）に対する援助として、文化学習協同ネットワークを利用して若者数名が来所し、ボランティア協会が発行している「ぼらんていあ通信」の発送業務（発行物の四つ折り、切手貼り、封入等）を発送ボランティアと一緒にこなしています。気軽に会話を交わすことにより、職場での対人関係の育成訓練に寄与することを目指しています。2018年度の「ぼらんていあ通信」発送業務への参加は2018年4月24日～2019年3月26日迄で計12回67名が参加しました。

(5) 家具転倒防止のための援助活動

高齢者や障がい者を対象に家具転倒防止を相模原災害ボランティアネットワークと協働実施していますが、2018年度中の依頼は2件あり、緑区の1件はキャンセル、南区の1件は8月に実施しています。

この活動は市危機管理課が作成しているチラシにボランティア協会の活動として紹介されています。

(6) 住まい探しのための援助活動

相模原市の高齢者等住まい探しの相談事業の窓口である公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会（まち協）からの要請による「住まい探しサポーター」としての活動も5年を迎えました。今年度、相談会は計画6回のうち5回実施され、延べ10名を派遣しました。また、相模原市とまち協の相談会等事業の連絡会議にも2名参加しました。

3. ボランティア養成に関する活動

ボランティア活動を始める人を対象に、2018年7月に基礎講座、コース別講座を開催しました。さらに2019年3月（春講座）では終活を考え、さらに今をどう生きるかを考える中で、充実した人生を送るためのボランティア活動のすすめについて説明する入門講座を開催し、人材育成に取り組みました。

《受講者数》

基礎講座	コース別講座（内訳下表）	自分らしく（春講座）
23名	17名	14名

《コース別講座内訳》

外出援助	高齢者支援	音声訳	福祉車両
4名	3名	9名	1名

4. 情報発信に係わる事業

当協会の発行する「ぼらんていあ通信」は1981年以来、毎月発行し2019年3月で通巻448号となりました。講座、イベントの記事やボランティア団体の訪問記事、クイズ、イラストなどに加え、市社協の活動内容記事、市内で活躍する会社紹介も掲載しました。「ぼらんていあ通信」の配布先は会員以外にも市

内のボランティア団体、公民館や学校などにも配布し、情報提供を図りました。

ぼらんていあ通信に市内で活躍する会社を2015年1月号より、2019年3月号までに41社の紹介をしました。市民、企業にボランティア協会の活動を理解してもらい、協力を得る目的で福祉に理解のある会社や相模原青年会議所、商工会議所に所属している会社を中心にリレー形式で取材、掲載しております。季刊のボランティア情報誌「わくわく」は41号～44号を発行。ボランティア関係の座談会や、福祉に関する情報提供も盛り込み、毎号300部を発行しております。

協会のホームページは2017年に刷新し、閲覧者も月平均1,000名を超えており、これからの情報発信の有効な活用が期待されます。

## 5. 外部会議等への参加

当協会は、相模原市の社会福祉審議会、精神保健審議会、地域福祉推進委員会、福祉のまちづくり推進協議会、市社会福祉協議会の地域福祉活動計画等推進委員会の委員を委嘱され派遣しています。さらに社会福祉事業団の監事も委嘱されています。

その他相模原市主催の桜まつりでは、HC車のパレードへの参加、福祉バザーの実施、市社協ふくし・ふれあいブースでの模擬店にも参加しています。また、相模原災害ボランティアネットワーク（SSV）の運営委員として、SSVの運営に係わっています。

## 6. その他の事業

### (1) 法人運営、HC調整のための活動

法人運営と日常の連絡調整を行うための事務局についてはあじさい連絡所で運営しています。事務局員や事務局サポーターの大きな協力のもと推進してきましたが、人により負担の偏りもあり一層の強化が必要です。

また、市社会福祉協議会の中央ボランティアセンターとの連携を取りながら円滑な運営に努めています。

### (2) 活動財源確保のための活動

認定NPO法人制度を利用した会員に対する寄付促進のキャンペーンを行いました。また、イオングループの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加、「ぼらんていあ通信」への会社紹介記事などで、協賛、寄付などのお願いをしてきました。またさくら祭りでバザーの実施、市社協ふくし・ふれあいブースで海苔巻き、串団子、玉こんにゃく、甘酒を販売、㈱イノウエ様より組紐づくり体験機を3年連続でお借りし、大勢の人に喜んでいただきご寄付を頂きました。その他ほかほかふれあいフェスタで喫茶コーナーのコーヒー販売をボランティア協会有志の会として行いました。

### (3) 新規正会員勧誘の活動

ボランティア養成講座や入門講座の最終日に協会やHCの説明および申込み窓口を開設し新規会員の獲得を推進しました。またその他にも南地区で社協の講習会に参加しハンディキャブ運転ボランティアの増加策も実施しました。

《正会員数推移》

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
正会員数	130名	119名	108名	115名	121名	118名	116名
当年度入会者数		4名	6名	20名	23名	12名	11名
前年度退会者数		15名	17名	13名	17名	15名	13名